

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
感謝・絆・全力 ～小中一貫教育と各種交流活動によって 自主・自立に向かう児童生徒の育成～	①「感謝」― 豊かな心【キーワード： 自他の生命尊重 他人を思いやる心】 ②「絆」― 絆づくり【キーワード： 人間関係力の向上 ふるさとへの愛、誇り】 ③「全力」― 学力向上【キーワード： 基礎・基本(学習・生活習慣)定着 思考力・判断力・表現力向上 体力向上】

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①「感謝」―豊かな心

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	あいさつ、返事 言葉遣い 掃除指導の徹底 立腰	・「児童生徒は、友達や先生・地域の方々へのあいさつ、返事、言葉遣いがきちんとできている」と回答する保護者・教職員・児童生徒を95%以上にする。	・「あいさつ、返事、言葉遣い」についての指導を、年度初めに全校集会、学級指導、部活動を通し徹底する。また、年間を通して全校集会の際に「あいさつ、返事、言葉遣い」についてふれ、意識の継続を促す。 ・言葉遣いについては、道徳、人権・同和教育とも関連させながら継続した指導を行っていく。
	●心の教育	道徳教育の充実	・道徳の時間を要に、各教科、特別活動、学校行事など教育活動全体を通じて、児童生徒の豊かな心作りに取り組む。	・小学部では年間指導計画をもとに、また、中学部では年間指導計画をもとに生徒の実態に合わせて重点項目を設定し、各教科、特別活動、学校行事などと関連させながら総合的に指導を行っていく。 ・年に1回ふれ合い道徳の授業を全クラスで公開し、家庭や地域の方々への学校の取り組みを知ってもらおうと共に、家庭、地域との連携を図る。
		人権・同和教育の充実	・職員アンケートにおける人権・同和教育の充実について、「よくできた」の割合80%以上にする。	・人権集会や平和集会、人権作文や標語、全校でのほかほかの木取り組み等で児童生徒の人権意識を高める場を設定する。 ・「北山校みんな仲よし宣言」を児童生徒に意識させた人権教育の実践を行っていく。 ・「自他を大切にすること」の視点を大事しながら、児童生徒の人権への意識を高めるような実践を行う。
	●志を高める教育	夢や目標の実現に向けて努力する気持ちや高める教育活動の推進	・児童生徒が自らの将来に夢や希望をもち、周りの人々とかかわりながら主体的に生きようとする意識と態度を育てるキャリア教育を推進する。 ・系統性と連続性を重視した9年間の一貫した生き方指導の指導計画を立案、実践することにより、発達段階に応じて身に付けられるべき社会性を系統的に育成していく。 ・働くことの大切さや、人のために役立つことの喜び、友だちとの仲間意識や思いやりなどを学ぶために、年齢に応じて体験学習を行う。	【前期】 ・係や当番の仕事に責任をもって取り組む。 ・3・4年生は前期ブロック集会を計画し、運営する。 ・町探検を行い、地域で働く人々のことを知る。 【中期】 ・地域の「産業」をテーマに総合的な学習を行い、関係施設の見学や調査研究等を行う。 ・ディサービス訪問を行い、介護の実態にふれるとともに、地域のお年寄りとの交流を楽しむ。 ・職業人や先輩に学ぶ機会を通して、自己の進路について考える。(7年・8年) 【後期】 ・8・9年合同の高校説明会を行い、自己実現のための進路計画を考える。 ・農業施設見学、看護体験、職場体験を通して、職業に対する理解を深める。(8年) ・北部保育園で保育体験を行う。(9年家庭科)
	●いじめの問題への対応	月1度の集会の充実 生活アンケートの活用 全職員で未然防止・早期発見・早期対応の取組	・思いやりのある人間関係を作り、いじめのない学校にする。	・月に一回、いじめのちを考慮の日として、集会を行う。 ・いじめアンケートを定期的にとり、また日常の細かな観察を併せ、早期発見、早期対応をしていく。
○人と関わる力の育成	支持的風土づくり (自己肯定感)	・「毎日、学校で楽しく過ごしている。」「友達、下級生に対して思いやりのある人間関係を作り、いじめのない学校にする。」と回答する児童生徒の割合を90%以上にする。	・帰りの会で、「今日のスマイル」(お互いの良いところ)を発表し合い、自己肯定感を高めさせる。 ・子ども支援会議で生活実態アンケート「友達の良かったところ」を共有し、全職員で児童生徒を褒めて育てる。	
	交流学習の充実 (直接交流・遠隔地交流)	・「よその学校との交流学習で、進んであいさつしたり、話しかけたりできた。」という児童生徒の割合を90%以上にする。 ・「テレビ会議交流を通して、発表したり、質問したり、答えたりする力があつてきた。」という児童生徒の割合を85%以上にする。	・直接交流は、小学部は北山東部小と年2回の授業交流と合同のバス旅行、中学部は市内中学校・ろう学校と年1回行う。 ・テレビ会議システムを使った海外の学校との授業交流は、小学部は豪州リスミア校、中学部はニュージーランド校と、延べ年間18回をめぐりに交流授業を行う。学習内容と交流内容をつなげ、学習で身につけたことが発揮できるような交流を進める。	

②「絆」―絆づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○地域との連携	地域連携活動の推進	地域と連携した活動「北山ふれあい企画」の満足度の割合を90%以上にする。	・「北山ふれあいサマーキャンプ」「ふれあい冬の北山まつり」を、より実情にあったものに改善し、充実感を味わえる企画とする。 ・地域連携活動についてふれあい通信やブログ等で情報発信していく。
	○小中一貫教育	小中一貫教育の推進	・小中一貫教育のよさを実感する教職員・保護者の割合を90%以上にする。 ・小中一貫教育のよさを実感する児童生徒の割合を90%以上にする。	・小中一貫教育のねらいを確認して活動に力を入れるようにする。 ・6年生のリーダーシップを育てるために出番・役割を増やす。 ・ブロック別の活動を充実させることで、4年生、7年生のリーダーシップを育てる。
	○危機管理体制	危機管理意識の高揚	・危機管理マニュアルの共通理解を図り、児童生徒の安全確保を確実に実施する。 ・校内外の危険箇所を知らせ、児童生徒の安全に関する意識を高める。	・危機管理マニュアルの内容を全職員で確認し、児童生徒の安全を確保できる行動がとれるようにする。 ・危機的状況を想定した避難対応訓練を計画的に実施する。 (火災・地震・不審者対応など) ・施設設備の定期的な安全点検を実施し、危険箇所が発見された場合は迅速に対応する。
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	教職員の連携促進	・会議や事務の効率化を図り、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保する。 ・タイムカードで勤務時間を意識し、限られた時間内で最大の能力を発揮する。	・レジュメに、項目ごとの目安の協議時間を記載し、司会者は、最初に終了時刻を確認する。 ・提案者は、協議してほしい要点を簡潔に提案する。 ・定時退勤推進デーを中心に互いに声をかけ合い、時間外勤務を減らす。
教育活動	○総合的な学習の時間	北山地区における諸課題の発見・追究を通して、ふるさとに誇りをもち、生き生きと活動する児童生徒の育成	・「ふるさと北山(富士町)」について学び、ふるさとのよさ意識する児童生徒の割合を90%以上にする。 (中後期アンケート実施)	・「総合的な学習の時間」の全体計画に沿って、地域の施設や人材を活用し、地域と連携・交流する活動を、学年またはブロック単位でテーマを決めて計画・実施する。
	○幼保小中連携	北部保育園との相互理解及び連携	・北部保育園の保育・教育内容について意見交換の機会を3回設定する。 ・児童と園児の直接交流を年3回以上行う。	・富士町内の3小学校、2保育園合同の富士町内幼保小連携会議を6月と2月に実施し、情報交換を行う。 ・夏季休業中に小学部全職員で保育参観に行き、次年度入学する年長児についての情報を共有する。 ・児童園児の直接交流として、5月の実習田での泥遊び、2月の学校体験等を行う。

③「全力」―学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	基礎・基本の定着	12月調査の正答率を、県の十分達成比 5年生…国語1.10、社会1.10、算数1.20、理科1.20 6年生…国語1.10、社会1.10、算数1.00、理科1.10 7・8年生…国語・社会・数学・理科1.10、英語1.15 以上にする。	・北山校授業モデル(つかむ→見通す→考える→深める→まとめる)を徹底し、児童生徒が見通しを持ってすんで学習する授業を全校で徹底する。 ・放課後補充学習(小学部…火・金)(中学部…水曜日)を行い、学習内容の確実な習熟を図る。
		思考力を伸ばす授業力の向上(言語活動の充実)	・職員が言語活動の充実や思考力を深める手だてをとることができているという評価指数を85%以上にする。	・前期・中期・後期の各ブロックごと1回ずつ、計3回の全体授業研を行い、論理的思考力を伸ばす授業法の研究を進める。 ・北山校授業モデルをさらに工夫し、「考える」「深める」段階での、児童生徒の思考の可視化をしたり、話し合い活動を活発にしたりすることでその内容を把握し評価することで、思考力向上に生かす。 ・全体授業研究会では、指導主事等の講師を招き指導助言をもらうことで、職員の授業力向上に生かす。
		家庭学習の充実 (自学ノートの活用)	・家庭学習時間の平均が、各学年の目標時間を超える。	・家庭学習の手引を年度当初に配付し、年間を通して活用できるようにする。 ・小学部の自学週間を中学部のテスト期間にあわせて設け、学校全体で家庭学習の雰囲気高める。 ・自学週間、テスト期間にチェックカードを配布し、家庭学習の実態を把握する。 ・自学ノートの仕方を指導したり、良い取り組みを掲示したりする。
	○読書指導	読書活動の推進	・児童生徒の読書意欲を高め、たくさん本を読めるよう指導した教職員の割合を60%以上にする。	・毎日の朝読書の取り組みの中で教職員も読書に取り組む。朝の会や朝の会などで本についての話題を取り上げる。 ・新しい取り組みとして、児童生徒が貸し出し冊数を競いながら楽しく取り組める「どくしょのまち」を実施する。 ・中学部では国語の時間を使って学期に1回程度「ビブリオバトル」に取り組む。 ・食育と連携を図り、できれば本の内容にちなんだ給食メニューを取り入れてもらう。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目(あれば記入)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別支援教育	個に応じた支援体制の確立	・特別支援教育コーディネーターを中心に、生徒指導担当者や教育相談担当者、関係機関と連携を図り、幅広く支援活動を行い、職員が特別支援教育の充実を図る取り組みについて「よくできた」「だいたいできた」の割合を90%以上にする。	・全ての児童生徒について個別の指導計画を作成し、それを素に共通理解を図り、支援活動を行う。 ・佐賀県スクールカウンセラーによる授業実践及び職員研修の開催、また学校生活支援事業における巡回相談員を招聘しての研修会を計画する。 ・生徒指導、教育相談との連携を図り、子ども支援会議を介して全職員で情報交換を行う。
	●健康・体づくり	健康な体づくり	・視力がC以下の受診の呼びかけと、むし歯の治療率を60%以上にする。 ・感染症罹患率(インフルエンザ等)を昨年度よりも減少させる。 ・保健体育の授業が楽しいと言われる児童生徒を90%以上にする。(中後期アンケート実施)	・保健だよりを毎月発行して呼びかける。また、職員や委員会活動でも呼びかけを行う。 ・健康観察を徹底し、手洗い・咳エチケット(マスク)、換気等の呼びかけや環境衛生の改善に努める。また、家庭と連携して感染症予防ができるように、保健だよりや担任を通して情報伝達をする。 ・合同体育により、団体競技等を積極的に取り入れ、異学年での交流を行う。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目